われもこう 第1号

1998年4月8日発行

私たちの町軽井沢の町並みは、ここ数年でずいぶん変わったと思いませんか。特に、新幹線の建設や、新幹線の開通にともなって側道や跨線橋が建設され、また、オリンピック施設ができ、その周辺道路の拡張など、昨年は町の景観が一変した年でした。ほかにも宅地の造成やリゾートマンションの建設などなど・・・。

そんなわれわれニンゲンの活動の陰で軽井沢の山野草たちは姿を消しつつあるのです。でも今なら間に合うかもしれない、昔よく見かけた花がこれからもずっと咲き続けてほしい!! そんなわけで

軽井沢に野の花を増やす会

われもこうの会

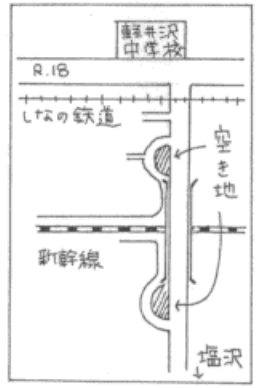
が発足しました。

三月、
林につもった雪が
ようやくとけはじめ
ました。
木の根もとは
まぁるく地面が
見えてます。
木って一本ずつ
小さな陽だまりを
もってるん
ですね。

空き地に花を

新幹線工事の後、あちこちに残された空き地で草花を育てたい・・・と、昨年、軽井沢中学校南側の新幹線跨線橋添いの二ヶ所の空き地の借用を町に申し入れました。今まで鉄道建設公団の所有地でしたが、今年三月末、町の管理地となる予定です。

花を植える前にまずは土作りからはじめなければなりませんが・・・。ただ、空き地が冬の間の雪捨て場となっており、塩カルの残留が今後草花の成長にどう影響がでるかは目下心配のタネです。



種蒔き情報

さて、お借りした空き地に植える草花のタネですが、軽井沢町の植物園からいただくことができました。花の種類は以下のとおり。昨年12月に会員の自宅庭に蒔きました。

クリンソウ（花期6月）
レンゲショウマ（花期8月）
マツムシソウ（花期8月）
オミナエシ（花期8～9月）
ワレモコウ（花期8～9月）
ヒゴタイ（花期8～9月）
アスター（花期8～10月）

この冬の大雪で、発芽はすこし遅れそうです。タネたちはまだ雪の下、元気に芽吹いてほしいとねがっています。

この本おすすめ！

『よみがえれ　水辺、里山、田園』
岩波ブックレット NO.364
千賀　裕太郎　著

埼玉県西部、入間川のほとりに棲むカッパの目からみた、日本の失われつつある水辺の自然についての小冊子。住民・行政・企業のパートナーシップによるグランドワーク方式でのまちづくりを呼びかけている。著者は、河童連邦共和国副大統領、グランドワーク協会事務局長。

特別寄稿

野草は何処へ

大林博美

オキナグサ、サクラソウ、アズマギクなど野草は数十年前の軽井沢のいたるところで見ることができ、あたりまえのことであった。しかし今日の軽井沢ではその面影すらなく、野草の多くが絶滅状態に瀕している。ここで、軽井沢でいかに野草が群生地をなし、いかに減少していったかについて考えてみたい。

町のほとんどが浅間山の噴火の影響を受けその土壌は酸性でやせており、ようやく森林の成育を見ても火山活動により阻害され消失し多くの時代を草原としていた。また人々の利用度も高冷地のため牧場やわずかな畑であった。江戸時代に入ると参勤交代のため街道として発達した宿場に燃料として山林は切られ炭、薪として利用された。原野は秣場（まぐさば）として牛馬の食料確保に広く活用された。またススキは屋根の材料として、ヨシは壁の材料として売られ大切な収入源でもあった。そのため刈り取られたり、火入れをされた草原、原野、山林ではまさに野草の天国であった。追分馬子唄にもススキの原や、アヤメが登場してくる。人が山林原野を生活に取り入れ幾世代にもわたるくり返しのできる利用の仕方では自然は失われず野草は生き抜いていたのである。

明治に入ると宿場は滅び、牛馬は農耕に使われるのみとなり秣場や原野の利用度は少なくなり、浅間山麓は国有地とされまたたくまにカラマツを植林された。しかし旧軽井沢、軽井沢駅周辺や南軽井沢には民有地が広がっていた。開発はされつつも野草の天国はまだ続いていた。当時軽井沢駅に降り立つと広大に開けた風景が大陸を思わせ、力車に乗ると野草の咲き乱れる道を揺られながら別荘へ向ったと記されている。（佐藤孝一著『かるいざわ』）　その後カラマツの芽吹き、黄葉の美しさに山々はおおいつくされ野草はほんの片隅、追分原や地蔵ヶ原へと追いつめられていった。

堀辰雄や立原道造が歩いた道は陽炎（かげろう）に支配され疎林を抜ける涼風が袂と夏草をゆらしていた。この風景は戦後まで続いたが、高度経済成長の名のもとに工業国へと変身した我が国の農業政策は大きく変わり、これまでの牛馬を使う多品目の少量生産から単品と機械力により大量に生産する方針となった。農村からは牛馬は消え秣場や原野は必要なくなりゴルフ場となった。しかし農家は市場経済の中で離農者が増え管理されない田、畑の畔からも野草は消えていった。野草の生い繁る別荘地も森林化が進み夏草はその姿を見つけることは難しい。私は野草が群生している風景を見ることができたが一方消滅していく過程も見てきた。ただ野草は陽の当る場所を好むため意外に人家近くの空間を利用すれば生きていくことができるのかも知れない。ここでわれもこうの会が野草の苗を植えることにより野草の存続のみならず、その花たちから季節を知り、心の糧となれば幸いである。

（大日向在住）

「われもこうの会」

にあなたも参加してください

２０年くらい前、軽井沢の町には、たくさんの野の花が咲いていました。マツムシソウで花束を作って、おとなりの小母さんにあげることもできたそうです。軽井沢の駅にマツムシソウを飾ることもできたそうです。

でも今は・・・、この花を見たことがない子もたくさんいます。

わたしたちは、ぜひ、あんなにたくさん咲いていた野の花たちを、軽井沢に呼び戻せないかと考えました。

新幹線工事も終わって、たくさんの空き地が残されました。これらの土地をお借りして花を植えられたら、どんなにすばらしいでしょう。コンクリートに囲まれた小さな土地でも、アヤメ、ワレモコウ、オオバギボウシ、ヤナギラン、マツムシソウなどが咲いたら、見違えるようになると思います。

苗のある人は、苗を。種をもっている人は、種を。何もない人は、力と時間を、貸してください。ちょっとした努力で、軽井沢の自然を守ることができるのです。自分たちの町は、自分たちの手で、もっと美しく、住みやすくしていこうではありませんか。

小さな小さな編集室

「われもこうの会」が結成されたのは去年の秋。いろいろと活動準備をしてきましたが冬がやってきて長〜い休眠状態に入ってしまいました。庭にまかれた野の花の種みたいに…。さぁ!!春の訪れとともに活動開始です。私たちの会報「われもこう」もようやく芽がでましたヨ。

発行／われもこうの会　　事務局／TEL.0267-46-2393　FAX.0267-46-2370